

泣菫詩抄

(откъс)

| | |
|--|--|
| <p>冬の鳥 雪の降る日に柗の あかい木の實がたべたさに、 柗の葉ではじかれて、 ひよんな顔する冬の鳥、 泣くにや泣かれず、笑ふにも、 ええなんとせう、冬の鳥。</p> | <p>春 きのふは桃の花が咲き、 けふは燕が巢にかへる。 雛の節句が来てからは、 いそがしぶりの増すばかり、 せめて一日寝てゐたい。</p> |
| <p>夏 鳥がなきます、 鳴くも、やれさて、 野べに、山べに、 夏が来たとして。 花のこぼれた こみち 森の小路を、 い 春は往ぬやら、 なごり惜しやの。</p> | <p>秋 山の南の山畑で、 玉蜀黍の葉が鳴るは、 いたづら好きな野鼠が、 ゑさ 餌をたづねに来たのやら。 山の南の山畑で、 玉蜀黍の葉が鳴るは、 鼠で無うて、としよりな 秋が来たのであつたげな。</p> |